

令和2年度離島漁業再生支援交付金漁業集落实績報告

令和3年5月14日

1. 対象漁業集落の概要

都道府県名：鹿児島県

市町村名：和泊町

島名：沖永良部島

協定対象漁業集落名：えらぶ漁業集落

協定参加世帯数：72世帯（82人）

（うち漁業世帯数：35世帯（35人））

2. 協定締結の経緯

和泊町において、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、水産業・漁村における多面的機能も失われていく懸念があるため、地域漁業の活性化を図るとともに集落の漁業生産活動によって発揮される多面的機能が確保されることを目指して離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

3. 取組の内容

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

- ・漁業被害を防止するため、サメ駆除を実施し、2,207 kg（300円/kg）を買い上げた。
- ・シラヒゲウニ種苗中間育成のための資材購入。種苗放流（9月：1,000個）

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

- ・イスズミ、ボラ、ソデイカエンペラー（ヒレ）等の未利用漁を活用した干物の試作品に取り組んだ。
- ・笠利漁協のウルトラファインバブルを活用した鮮度保持技術及びブランド化に向けた取組みを視察した。
- ・地元スーパーにおいて、島内産鮮魚PR活動及び消費者アンケート調査を実施。
- ・ソデイカブロック加工品の試作、検討
- ・えらぶ島もの軽トラマルシェにおいて、ソデイカブロック・ゲソ等を販売
- ・鹿児島大学水産学部教授、山口県萩市道の駅シーマーと理事を講師に、オンライン研修会を開催。
- ・魚食普及の取組みとして、キハダマグロ漁の動画を制作し、地元ケーブルテレビやYouTube動画（再生回数6.8万回）を活用したプロモーションを実施した。
- ・広報わどまり11月号に漁業特集6ページ掲載。
- ・島内小学生を対象に、魚捌き体験、魚汁を調理し、魚食普及を図った。

(別紙2)

- ・離島漁業再生支援交付金説明会（奄美市）に参加し、意見交換会を行った。
- ・新規漁業者にマグロ漁を指導した。

4. 取組の成果

※1 交付金交付対象漁業者所得平均 1,184,100 円

※2 漁業集落漁業就業者数 35 名

①漁場の生産力の向上に関する取組状況

- ・サメ駆除については、漁獲物や漁具への被害軽減について一定の効果があると漁業者からの評価が高い。
- ・シラヒゲウニの中間育成については、実証実験の結果、放流エリアの選定を行うことで育成可能であることが証明されたことから継続して実施する。

②漁業の再生に関する実践的な取組状況

- ・子育て世代の保護者や小中学校の島内修学旅行視察地として選定され、セリ見学が増加した。
- ・ユーチューブで「漁熱大陸沖永良部島チャンネル」を開設し、マグロ漁の様子や島魚料理方法などを配信したところ、島内外の個人の反響や、「世界ふしぎ発見」、「MBC かごしま 4 時」等のバラエティー番組の取材依頼があり放映された。動画配信は、PR 効果が高いことが実証されたことから、次年度以降も映像プロモーションを継続していく。
- ・令和2年度は、真空包装機・特殊冷風乾燥機・金属探知機を国の補助事業で導入したことから、令和3年度以降にソデイカ加工品及び干物の商品化に取り組む。
- ・えらぶ島もの軽トラマルシェ（軽トラ市）の出店、子ども魚捌き教室を実施したことにより、島の漁業に興味を持つ親子が増加した。

(注) 3 及び 4 については、主な取組について写真や数字、グラフ、図などを用いて具体的なイメージが持てるようにすることとする。